

第36回

霧島国際音楽祭

音楽監督：堤剛

日本で最も熱いフェスティバル！雄大な自然と音楽のハーモニー

7月15日(水)から8月2日(日)にかけて、霧島市の霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)をメイン会場として県内各地で『第36回 霧島国際音楽祭』を開催します。

世界一流のアーティストたちが奏でるコンサートやマスタークラス(講習会)など霧島国際音楽祭の魅力を紹介します。



36回目を迎える
歴史ある国際音楽祭

今年で36回目の開催となる霧島国際音楽祭は、1980年にゲルハルト・ボッセ(当時、東独ゲヴァントハウス管弦楽団第一コンサートマスター)が創設した日本で最も歴史ある音楽祭の一つです。

「受講生は霧島で学び成長すると、講師やアーティストとして音楽祭を支える」という伝統が根付いており、毎年数多くの観客と受講生が音楽を通じて充実した夏の期間を過ごします。

県内各地で行われる音楽祭を楽しみ、クラシック音楽に興味を持つきっかけにしてみたいいかがですか。

鹿兒島中が音に染まる
魅力溢れるコンサート

世界各地で活躍する60人余りの旧知の名手たちが、年に一度

霧島に集い、受講生も交えて2週間にわたり音楽の祭典を繰り広げます。

【問い合わせ先】

霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)

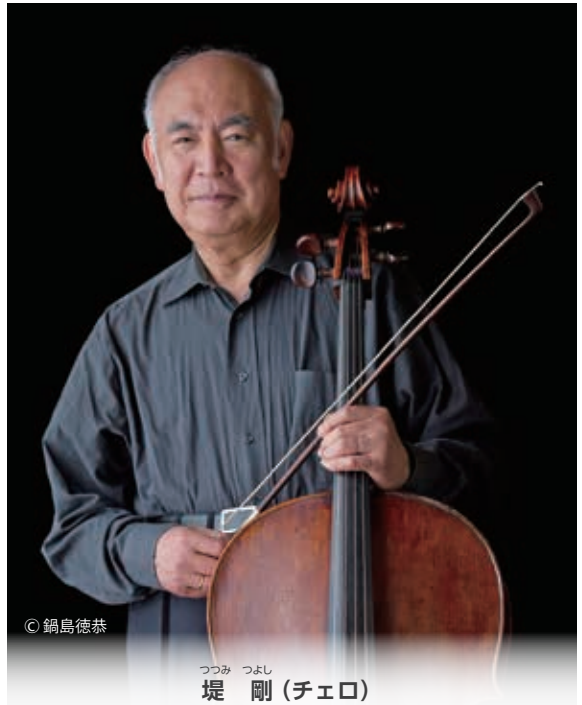
☎0995(78)8000



霧島神宮かがり火コンサート

第36回 霧島国際音楽祭 特徴とポイント

堤剛音楽監督からメッセー



© 鍋島徳恭

つづみ つよし
堤 剛 (チェロ)

名実ともに日本を代表するチェリスト、堤剛音楽監督が、クラシックの聖書とも言われる大作、バッハの「無伴奏チェロ組曲」を全曲演奏!

今年もまた、「日本で最も熱いフェスティバル」が始まります。

霧島国際音楽祭は、満員の聴衆を沸かせた一昨年の東京公演に引き続き、昨年、初の海外公演となった台北公演を成功させることができました。この2年間の県外での公演の成功は、霧島国際音楽祭が35年にわたって、じっくりと培ってきた質の高さを、より多くの方に知っていただくこととなり、霧島国際音楽祭の歴史の中で大きな節目となりました。これもひとえに、この音楽祭を愛し応援してきて下さった皆さまのお陰でございます。

改めてお礼を申し上げます。

今年は、鹿児島に集中して、ますます充実した内容の濃い音楽フェスティバルとして、開催させていただきます。

日本国内はもとより、世界各地から素晴らしい音楽家たちが集い、重厚なオーケストラから、心にしみわたる室内楽、ソロまで、音楽祭という特別な場ならではの、今ここでしか聴けない熱い演奏を繰り広げます。

この夏のひと時、音楽の熱い感動を、皆さまと共に分かち合えることを楽しみにしております。



エリソ・ヴィルサラゼ (ピアノ)

世界最高峰のピアニスト、エリソ・ヴィルサラゼが霧島を大いに気に入って今年も参加。最高レベルのマスタークラスのほかりサイタルや室内楽を開催します。また1988年第8回から音楽祭と深い縁のあるベトナム出身の国際的ピアニスト ダン・タイ・ソンが霧島国際音楽祭で初めてピアノ協奏曲を演奏。ファイナルコンサートでラヴェルの名曲「左手のためのピアノ協奏曲」を披露します。



キリシマ祝祭管弦楽団

鹿児島県出身の指揮者下野電也と、霧島国際音楽祭の講師やアーティストで構成された特別オーケストラ「キリシマ祝祭管弦楽団」が、ベートーヴェンの「交響曲第4番」を、さらに、2002年にチャイコフスキー国際コンクール最高位を受賞した川久保賜紀を迎えて、モーツァルトの「ヴァイオリン協奏曲第2番」を演奏します。



アンドレア・ロスト (ソプラノ)

世界5大歌劇場を制覇したプリマドンナ、ソプラノのアンドレア・ロストが、みやまコンセールとザビエル教会でオペラ・アリア満載のリサイタルを開催。まさに音楽祭ならではの贅沢なコンサートです。

奇跡のホールと称される「みやまコンセール」



みやまコンセールは、1994年、音楽祭のために建設され、国際音響学会で「奇跡のホール」と称賛されたホールです。外観は外洋に乗り出す船をイメージしています。また、55,000㎡の敷地には菩提樹に散策路と、自然と音楽を満喫できる特別な空間になっています。

「音楽家の学び」に触れられる公開マスタークラス

世界の名演奏家が、連日一対一のレッスンをを行います。音楽祭の原点であり、現在も大きな柱の一つであるマスタークラスは一般に公開されています。毎年、緑豊かな霧島の地で、レベルの高い指導が繰り広げられます。



詳しくは、音楽祭公式HPをご覧ください。 → <http://www.kirishima-imf.jp/>